

For the Environment

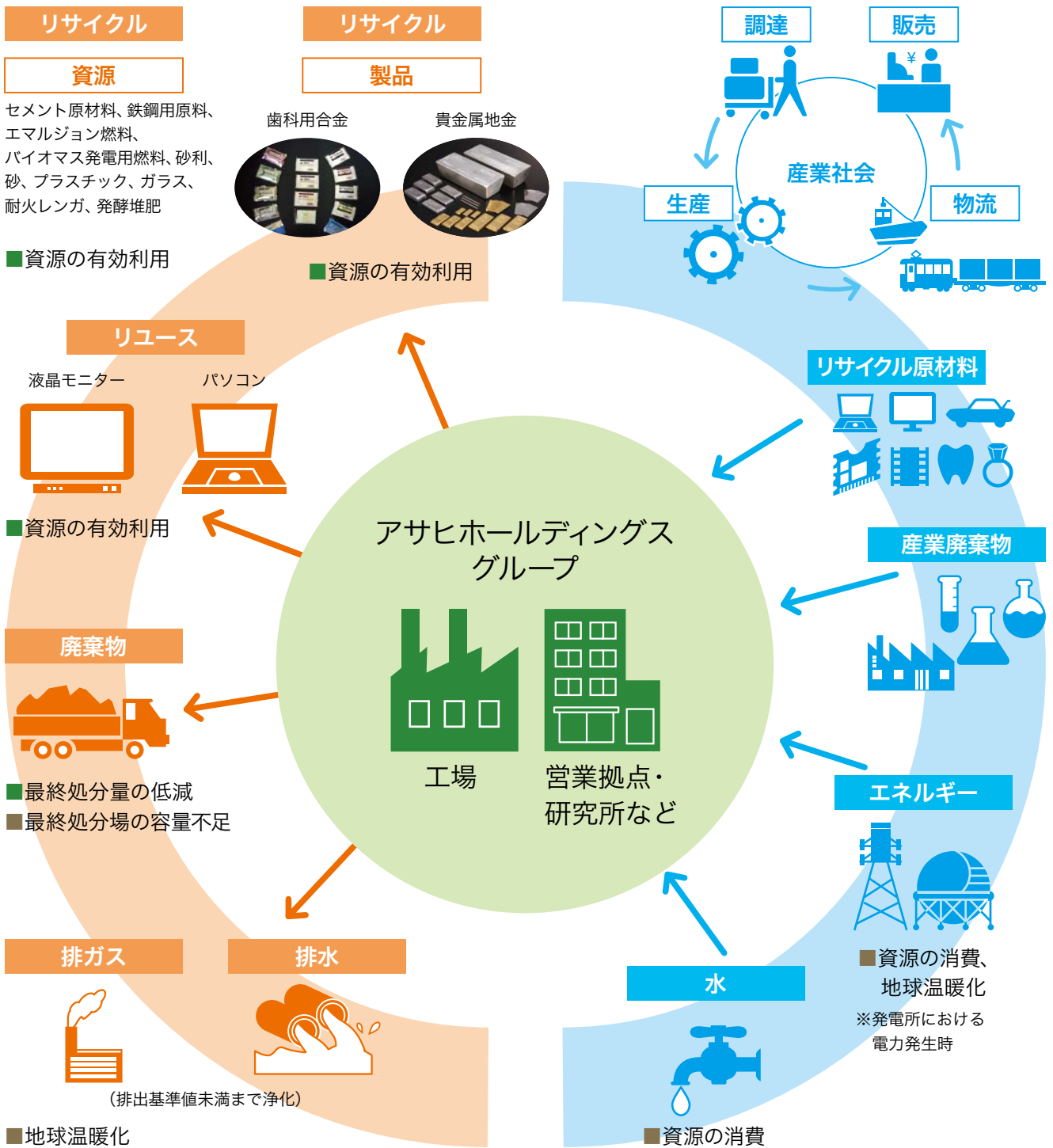
アサヒホールディングスグループは、地球環境の保全活動に取り組む方針を制定・運用し、環境と調和のとれた持続可能な発展をめざしています。

INDEX

- 19 事業活動にともなう環境影響
- 21 地球温暖化防止への取り組み
- 23 事業活動を通じた環境負荷低減効果
- 25 環境マネジメント

事業活動にともなう環境影響

事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入 (INPUT) と
事業活動を通じて生じる環境影響 (OUTPUT) を表しています。



環境パフォーマンス

貴金属リサイクル、環境保全の事業活動で使用したエネルギー、資源（水）、薬品などをINPUTとし、INPUTとして投入した物質が、事業活動を行うことで排出する環境負荷を、OUTPUTデータとして記載しています。

事業所の増加によりエネルギー使用量は若干増加しましたが、業務改善等によりCO₂排出量は微増にとどめました。

INPUT

	単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
電力	MWh	15,892	18,942	23,167	21,674	24,097
重油	kl	1,410	2,433	2,406	1,466	1,466
灯油	kl	574	569	547	379	440
軽油	kl	2,823	2,746	2,852	2,965	3,216
ガソリン	kl	632	704	804	848	899
都市ガス	千m ³	784	700	684	527	64
水	千m ³	206	253	366	345	378
薬品等	t	20,082	21,336	17,347	13,293	13,189

OUTPUT

	単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
CO ₂ 排出※1	t	21,653	25,233	27,750	24,346	24,867
排水※2	千m ³	252	250	245	208	246
廃棄物	t	23,700	24,848	20,886	16,644	16,249

※1：2009年施行の地球温暖化対策の推進に関する法律に準拠し算出

※2：排出基準値未満まで浄化

環境会計

環境経営の推進にあたり、2005年度から環境会計を導入し、環境保全に関するコストを公開しています。環境省の環境会計ガイドラインに沿って作成しました。

●環境保全コスト

(単位：百万円)

	分類	主な取組み内容	費用額	投資額
1. 事業エリア内コスト	(1) 公害防止コスト	排ガス処理設備、排水処理設備の維持管理等	334.46	232.36
	(2) 地球環境保全コスト	省エネルギー活動(節電、車両燃費向上等)	10.14	43.76
	(3) 資源循環コスト	産業廃棄物処理委託	941.97	0.00
2. 上・下流コスト		—	0.00	0.00
3. 管理活動コスト		ISO14001 管理活動 コーポレートレポート作成	65.26	0.00
4. 研究開発コスト		貴金属精製工程の合理化 廃棄物の埋め立て量削減	85.88	0.00
5. 社会活動コスト		地域の清掃活動	5.23	0.00
6. 環境損傷対応コスト		—	0.00	0.00
総計		—	1,442.94	276.12

地球温暖化防止への取り組み

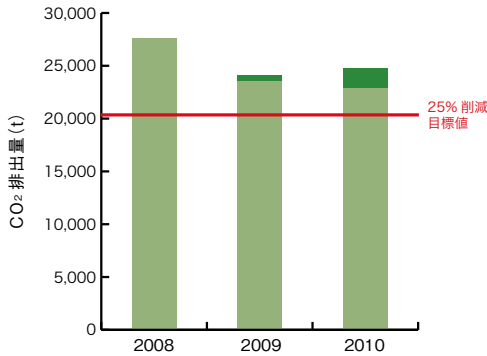
目標：温室効果ガス*を2008年度を100として、2020年までに25%以上削減

*：温対法で定めるエネルギー起源二酸化炭素

主要施策

- ① 廃棄物の有効利用(化石燃料の代替使用)
- ② 省エネ型機器・設備・建物への更新
- ③ 焼却炉廃熱の有効利用
- ④ 廃棄物燃料の利用拡大

●温室効果ガス排出量(エネルギー起源*：生産、輸送、事務所など)



2010年度は事業所の増加により全社での温室効果ガス排出量が昨年と比較して2.7%増加しました。

一方、当社の温室効果ガス削減目標の対象拠点(2008年度ベース)で廃棄物焼却炉における省エネ運転、廃棄物燃料の積極的な利用などにより2008年度比では17.1%削減しています。

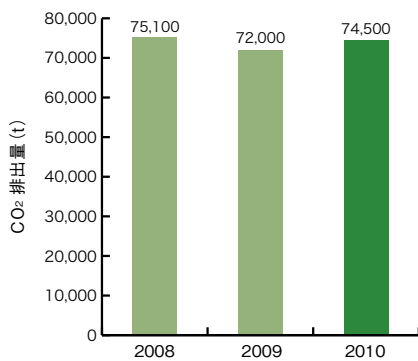
- 削減目標の対象となる温室効果ガス排出量
- 事業所の増加に伴う温室効果ガス排出量

*温室効果ガス排出量の計算

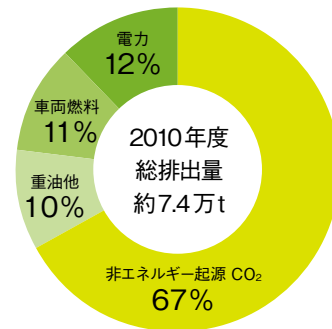
[エネルギー起源CO₂] = [電力、化石燃料の使用に伴い排出するCO₂]

[実排出量] = [エネルギー起源CO₂] + [産業廃棄物の焼却に伴い排出するCO₂]

●温室効果ガス排出量(実排出量*：生産、輸送、事務所など)



●温室効果ガス排出量の内訳



●グリーンカーテン

地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、社員一人ひとりが環境負荷低減活動に取り組んでいます。テクノセンターでは西側の窓外にゴーヤを栽培して猛暑をしのぎました。



●環境省「温室効果ガス削減ポテンシャル診断」を受診

北九州事業所の産業廃棄物焼却炉が対象事業所に採択され、受診しました。

焼却炉ガス廃熱回収、廃プラスチック油化による焼却効率改善、LNG(天然ガス)への燃料転換、照明のLED化など温室効果ガス削減に有効なアドバイスをいただきました。

この診断結果をもとに、より一層の温室効果ガス排出量削減に取り組めます。



省エネルギーへの取り組み

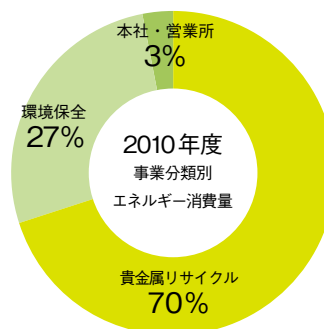
2010年度の取り組み状況

2010年度は事業所の増加によりエネルギー消費量が増加しました。既存の各拠点では省エネ目標を掲げて積極的な削減に取り組んだ結果、昨夏の記録的な猛暑の影響はありましたが前年比2%のエネルギー使用量を削減しました。

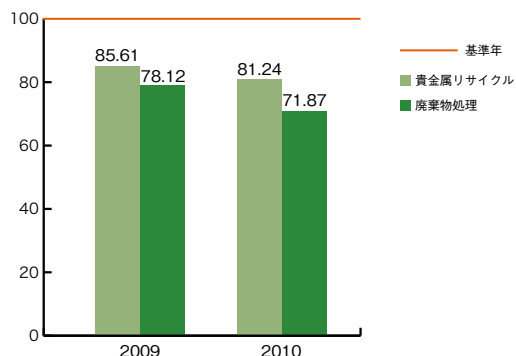
●エネルギー消費量(生産、輸送、事務所など)



●事業分類別エネルギー消費量(アサヒプリテック)

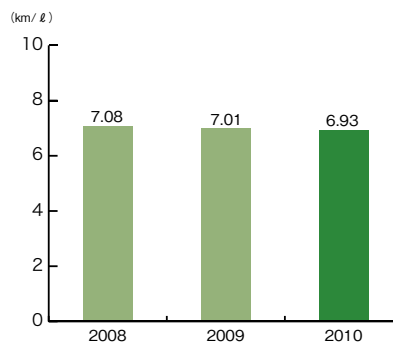


●エネルギー原単位(アサヒプリテック)



●車両燃費(アサヒプリテック)

昨夏の猛暑によるエアコン使用の増加と環境安全性の高いウイング車等への切替による車体重量の増加が燃費悪化の要因となりました。



●各工場での省エネへの取り組み

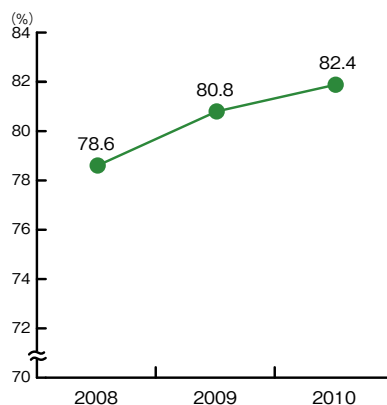
- (1) 埼玉工場
各設備を省エネ運転に変更 (原油換算 37.8k ℓ)
- (2) 福岡工場
生産性向上によるエネルギー削減 (原油換算 75.3k ℓ)
- (3) 北九州工場
産業廃棄物の原燃料使用 2,178.2t
- (4) 阪神事業所にハイブリッド車を導入



●リサイクル率向上の取り組み

さまざまな廃棄物からリサイクルを進め、2010年度は過去最高の実績となりました。

<リサイクル率>



事業活動を通じた環境負荷低減効果

当社グループの環境負荷低減効果 (2010年度)

グループの主要事業・業務を対象に、その事業活動が社会全体の環境負荷をどの程度低減しているかを評価しました。評価対象として、貴金属リサイクル、環境保全の2事業部門と工場やオフィスにおける省資源活動を取り上げ、①天然資源節減量、②再資源化量、③温室効果ガス排出抑制量、④最終処分量低減効果について算出しました。

事業・工程 環境負荷低減効果	貴金属リサイクル	環境保全							太陽電池発電
		廃液処理	建設廃材リサイクル	ガラス/レンガリサイクル	焼却処理	発酵堆肥化	燃料製造	フロン無害化処理	
天然資源節減	●		●	●	●		●		
再資源化		●	●	●		●	●	●	
温室効果ガス排出抑制	●							●	●
最終処分量低減			◆	●	●	●	●		◆

●：重量で算出
◆：数値評価の対象外

最終処分量低減効果は、当社に持ち込まれた廃棄物のうち廃油、廃酸、廃アルカリ以外で、当社廃棄物処理工程を経ることによって減容化した量（管理型埋め立て処分しなかった量）を対象としています。

天然資源節減効果

各種廃棄物の再資源化により、天然資源（貴金属・非鉄金属鉱石、砂利、砂、^{ろうせき}蛭石、珪石、森林、化石燃料など）の採掘や伐採を節減し、地球環境の保全に貢献しています。

貴金属鉱石（貴金属リサイクル）



貴金属やレアメタルを多く含む原材料をリサイクルし、貴金属鉱石などの鉱物資源の節約に貢献しています。

3,210.0千t

砂利（建設廃材リサイクル）



廃コンクリートなどの建設廃材から、砂、砂利、埋め戻し土などにリサイクルしています。

14.3千t

化石燃料（廃棄物有効利用）



焼却炉で、廃棄物（廃油、プラスチックなど）が保有する熱エネルギーを有効活用し、焼却に必要な燃料（化石燃料）を節減しています。

7.7千t

森林（建設廃材リサイクル）



木質系建設廃材から作られた木材チップは、カーボンニュートラル燃料として化石燃料に代わり使用されています。

3.0千t

再資源化（リユース製品含む）

さまざまな産業廃棄物を原料に再資源化し、主として次のようなリサイクル・リユース製品を生産しています。

（ ）内は原料廃棄物

河川（無機・有機廃液）*



232.1 千t/年

*： 廃液処理施設からの放流水

ガラスカレット（瓶、廃板ガラス）



99.4 千t/年

砂利、砂（建設廃材）



14.3 千t/年

発酵堆肥（食品廃棄物）



12.5 千t/年

非鉄金属原料（金属含有廃液）



4.8 千t/年

セメント用燃料（廃プラスチック・廃油）



4.2 千t/年

耐火レンガ（高温炉廃材）



3.1 千t/年

木材チップ（建設廃材）



3.0 千t/年

金属くず（建設廃材、OA機器）



1.8 千t/年

リサイクル石膏



0.4 千t/年

温室効果ガス排出抑制効果

140.3 千t

貴金属やガラス・耐火レンガリサイクル、フロン回収などの事業活動を通じて温室効果ガス排出抑制に貢献しています。

●金の場合

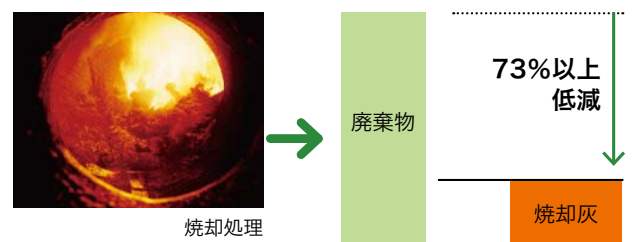
鉱山生産でのCO₂排出量 100%

当社リサイクル生産でのCO₂排出量 14.3%

最終処分量低減効果

廃棄物減容量 21.1 千t

廃棄物を焼却することにより、最終処分量（埋立処分）を低減することができます。



環境マネジメント

環境方針

貴金属・希少金属リサイクル業と産業廃棄物処理業を中心とした各事業を通じて、地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。

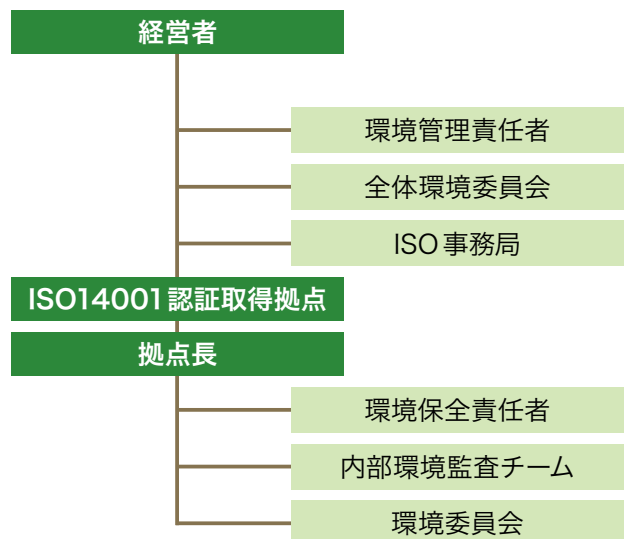
- (1) すべての事業活動において、環境負荷軽減のために、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減およびリサイクルを図ります。
- (2) 限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属・希少金属を中心とした資源のリサイクルを推進します。
- (3) 産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、環境汚染を防止します。
- (4) 自然との調和、地域社会との共生を大切にし、関連する環境の法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (5) 環境目的・目標を定め、定期的に見直し改善します。
- (6) 社員が一市民としても環境保全活動に理解を深め、かつ行動するように教育・啓発を行い、意識の向上を図ります。

この環境方針は全従業員および組織のために働く全ての人へ周知するとともに、社外にも公開します。

環境マネジメント推進体制

環境保全の理念を定めた「環境方針」に基づき、「全社環境目的・目標（年間計画）」を策定します。

これを受け、ISO14001 認証を取得している事業所では、「拠点環境目的・目標（年間計画）」を策定し、業務に密着した環境保全活動を行います。また、各拠点の環境委員会は環境法規制の遵守、計画の見直し、環境教育等を審議し経営層に報告しています。環境マネジメントシステム（以下、EMS）はISO事務局が統括していますが、各事業所に環境保全責任者を設置し、推進の徹底を図っています。



ISO14001 認証取得状況

当社グループでは、アサヒブリテックの6つの大規模拠点を含む10拠点でISOの統合認証を受けています。

また、ジャパンウェイストの関係会社においても、4社7拠点で個々に取得しています。



ISO14001 認証登録書

ISO14001 環境監査

ISO14001活動の規格適合状況は、定期的に外部審査機関による審査を受けています。

また、各拠点においてもEMSが適切に運用されていることを確認するために、内部環境監査を年1回以上実施しています。



外部定期審査